生産ライン 競争力の源泉 51

新設のA棟では半自動化が進む

ヒーハイスト

現場に営業部門が同居

直動機器 効率的に増産

ヒーハイストは直動機器「リニアブッシュ」や半導体製造装置のジョイント部分に使う球面軸受などの開発・製造を手がけるメーカー。特に半導体業界を重要な取引先と位置付け、日々ニーズに合わせた製造を心がける。その他レース用精密部品の肝の部分も手がける。

（川越・宮城かれん）

2020年から中期経営計画の一環としてスタートしたのが「スマート生産プロジェクト」。設備投資を通じた増産・安定生産の構築や社内の組織改革を積極的に進め、次の需要の山に応える盤石な体制づくりが狙いだ。主にリニアブッシュなど直動機器の製造ライン増強や安定増産を目標に、工場新設や設備投資を行っている。

23年5月には新たな工場棟「A棟」を完成、稼働した。A棟では半自動化の製造手法を導入。半導体関連部品の製造過程では「自動化・省人化が進む中、当社でも省力化に取り組んでいる」と尾崎浩太社長は話す。また、製造工程など現場だけでなく、社内の組織改革にも積極的だ。

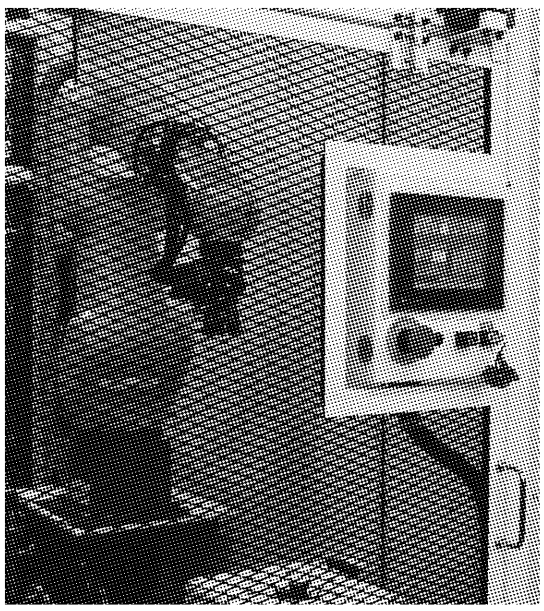
ヒーハイストは創業当初から「現場」「営業」が同じ場所にあり近い存在であるのが強み。営業が獲得した仕事に対し、製造現場の声が反映できたり、その反対もしかりだ。中でも特色があるのが「生産推進係」という部署で、営業部の下に置かれ、生産管理業務を担っている。

現場の管理をする部署をあえて営業部の下に置くことで、生産現場と営業とのスピード感や温度感の差を埋められたり、お互いに声をかけやすい環境を作っている。

「営業と現場が一体となって賢くやろうよ、という考えのもと社内体制を構築してきた」（尾崎浩太社長）と話す。

さらに、生産効率や能力を上げるためにも大事にしているのが〝人〟だ。18年を皮切りに、海外人材の受け入れをスタート。現在、37人が、仕事へのやる気と熱意を持って勤務する。積極的な人材教育で、オペレーターだけではなく、図面を見て作業する精密部品加工などレベルの高い仕事ができるように育てている。また技能実習生から特定技能者も誕生しており、人手不足解消につながっている。

同社では近年、相次ぐ設備投資で生産能力および効率を高め、次の需要の山に備える。今後も「より一層の自動化を進めることはもちろん、人を大事にする企業として人間の知恵を使い、会社を発展させていきたい」（尾崎社長）と先を見据える。



ヒーハイストが導入しているロボット

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社